



北海道における縄文後晩期の低湿地集落 - 農耕の視点で考える -

倉橋 直孝（財団法人北海道埋蔵文化財センター）

＜はじめに＞ 北海道における縄文時代後晩期の低湿性遺跡調査は、千歳市美々4遺跡呑口部などで行われていたが、本格的な調査は小樽市忍路土場遺跡にはじまる。その後、千歳市キウス4遺跡、キウス5遺跡、苫小牧市柏原5遺跡、余市町安芸遺跡などで調査が行われている。

栽培植物の検出については、花粉分析、プラントオパール分析、水洗選別法、フローテーション法などが用いられている。北海道ではフローテーション法による植物遺体の検出が他の地域に比べ1970年代から継続的に行われているので、この成果を中心に報告する。この方法の利点は、サンプリングする地点が低湿地部分に限定されず、台地上の遺構（竪穴住居跡、土壙、焼土、盛土遺構など）でも行えることである。

＜北海道における縄文時代後晩期の遺跡から出土した植物遺体＞

縄文時代後晩期の遺跡から出土した植物遺体の種類：表1のようにフローテーション法により木本、草本類の種実などを検出した。大部分が野生種であるが、一部栽培植物も見つかっている。キウス4遺跡、キウス5遺跡、柏原5遺跡、札幌市N30遺跡からはアサが、忍路土場遺跡からはゴボウ、シソ、ホウズキ、恵庭市ユカンボシE7遺跡からはアワ、恵庭市西島松5遺跡からはオオムギ、小樽市塩谷3遺跡からはオオムギ、アワ？が検出されている。柏原5遺跡から出土したアサは量が比較的多いが、その他のものは出土数が少なく、実際に現地で栽培されたものか、持ち込まれたものか、もしくは偶発的に混入したものか判断が難しい。その他、花粉分析では、忍路土場遺跡、奥尻町東風泊遺跡、千歳市ママチ遺跡からソバ属の花粉が見つかっている。

＜北海道における縄文農耕の可能性＞

縄文時代に農耕があったかどうかは、農耕の定義も含めてさまざまな議論がある。

栽培植物：ソバ、アサ、ソバ、アワ？、ゴボウ、シソ、ホウズキ、オオムギが検出されている。

畠跡：千歳市美々貝塚北遺跡で畠跡といわれる遺構が報告されているが、解釈が難しいところである。その他に縄文時代の畠跡はみつかっていない。

農具：はっきり農具といえる遺物は出土していない。しかし、キウス5遺跡などから出土している尖頭加工棒は、播種などに利用することが可能である。

ヒエ属に見られる形態の変化：縄文時代早期貝殻文期の函館市中野B遺跡からヒエ属の種子が出土している。エノコログサなど同様に生えていたと思われる植物種子が検出されないこと、出土するヒエ属の種子には脱穀されているものが多いことから、選択して利用していたと考えられる。その中に野生種のイヌヒエの形態でありながら、栽培型のヒエに近い形態を持つものが見られる。これらの形態変化は、その他縄文時代の遺跡から出土するヒエ属種子にも見られる。これは人が関与することによる野生植物から栽培植物への馴化（domestication）の過程と同じものである可能性がある。

＜まとめ＞ 本州の後晩期のようにイネの検出は見られず、雑穀ではアワ、オオムギが少量出土しているにすぎない。ただ、ヒエ属は早期中葉の中野B遺跡から出土し、縄文時代の各時期に見られ、それが続縄文時代に続いているようである。形態変化が縄文時代を通してみられることを積極的に評価すれば馴化の過程をあらわしているといえる。ヒエは日本で栽培種になったと考える農学者もあり、このような状況が本州の縄文時代の遺跡でどの程度みられるのか今後の課題であると考える。

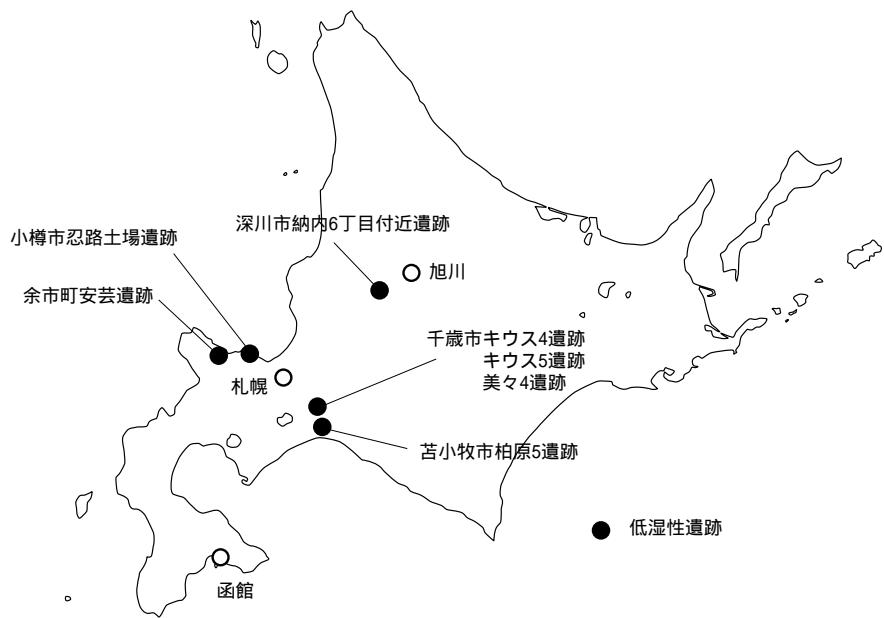
低湿性遺跡から出土した植物遺体

	遺跡名	時期	サンプル地点	植物名	報告書名	発行年	発行元	同定者
1	小樽市忍路土場遺跡	縄文後期	低湿地遺物包含層	ハイイヌガヤ種子・アカドマツ球果・オニグルミ核・アサダ堅果・ハシバミ堅果・ハノキ果穂・鱗片・ミズナラ堅果・コナラ・クリ堅果・ホウノキ種子・コブシ種子・ヤマザクラ種子・キハダ種子・ミツバウツギ種子・トチノキ種子・ヤマブキ種子・サルナシ種子・ミズキ種子・ハクワシノブ種子・ヒココロ種子・オオカミノキ種子・イネ科・エノコログサまたはギヨウコログサ・カマツリグサ科ホタルケ属・カヤリソクサ科カヤリグサ属・タデ科種子・アガサ属・アブラン科・シソ・ホウズキ・ゴボウ	『小樽市 忍路土場遺跡・忍路5遺跡第4冊分』, 193212	1989	北海道埋蔵文化財センター	矢野牧夫
2	千歳市美々4遺跡	縄文後期	低湿地遺物包含層	オニグリ・ルミ核・核片・ハシバミ堅果・ミズナラ堅果・殻斗・クリ堅果トチノキ種子皮・ビン刺針・ヤマブキ種子	『美沢川流域の遺跡群3』, 53-56	1979	北海道教育委員会	矢野牧夫・尾上博章
3	苫小牧市柏原5遺跡	縄文後～晚期	遺物包含層	イネ科(ヒエ属)・シソ属・アサ・タデ科・アカザ属・ケシ科・エリエングサ科・セキモ・カヤリソクサ科・スケ属・ヒルムシロ属(ヒルムシロ)・クサノオウ属(クサノオウ)・ハラ属(ハマナス・スクワク属・クワ)・カラマツソク属(カラマツソク)・タラノキ属(タラノキ)・マタタビ属(サルナシ)・シノコ属・エゾノコトコ・ハグハ属・ブドウ属・ヤマブク・ミズキ属・モクレン科・ホウノキ・ヒシク・クリミ属・ナリ科(ミズナラ)	柏原5遺跡	1997	苫小牧市教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財調査センター	椿坂恭代
4	千歳市キウス5遺跡A・2地区	縄文中～後・晚期	土壌・焼土・包含層・流路	<台地部分>アサ・タデ属・ナス科・ネギ属・マタタビ属・タラ属・キク属・ハダニ属・ミズキ属・サクラ属・ブドウ属・クリ属・コラゴ属・クリ属 <段丘・低湿地・旧河道部分>アサ・タデ属・ナス科・ミヤマガリガ科・ミツバウツギ属・マタタビ属・タラノキ属・キハダ属・ケシ属・サクラ属・ブドウ属・モクレン属・エゴノキ属・クリ属・クリミ属・ハノノキ属	『千歳市 キウス5遺跡(5) 第2分冊』, 369-382	1998	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一・椿坂恭代
5	千歳市キウス4遺跡A・2地区	縄文前期	豎穴住居・焼土・土壌・包含層	カヤツリグサ科・ホタルイ属・コシ科・ミツバウツギ属(ミツバウツギ)・キハダ属・ブドウ属(ヤマグドウ)・ホウノキ属・コナラ属・クリミ属(オニグリ)	『千歳市 キウス4遺跡(4)』, 211-217	1999	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一・椿坂恭代
6	深川市納内6丁目付近遺跡	縄文早期	旧河道・豎穴住居	オニグリルミ核・核片・ヤマグワ核・ホウノキ核・コブシ核・キチゴ属核・ナカドマツ属核・サクラ属核・キハダ・ブドウ属核・サルナシ種子・タラ・クリ属核・ミズキ核・エゾノコトコ・イネ科種子・ヒルムシロ属果実・カヤリソクサ科・キハダ・ホタルイ属核・ナス科種子・シソ科種子・ナズシ科種子・キク科果実・アブラン科種子・マメ科種子	『深川市 納内6丁目付近遺跡2』, 255-276	1990	北海道埋蔵文化財センター	山田悟郎

栽培植物またはヒト属が出土した遺跡

遺跡名		時期	サンプル地点	植物名	報告書名	発行年	発行元	同定者
1	小樽市塩谷3遺跡	縄文晚期	土坑・屋外炉・包含層・流路	ヒ工属・メビシバ属・キンエノコロ・アワ・オオムギ・タデ科・キク科・マメ科・マタタビ属・ニワコ属・タラノキ属・キハダ属・ウルシ属・ミズキ属・ブナ属・クリニ属	『塩谷3遺跡』, 134-140	1991	小樽市教育委員会	吉崎昌一
2	札幌市N30遺跡	縄文後～晚期	住居址・焼土・炭化物集中・石片集中	アサ・タデ属・ナス科(ホウズキ属)・マメ科・バラ属・ハマナス・キハダ属・マタタビ属・サルナシ・ニワコ属・タラノキ属・タラノキ・ミズキ属・ウルシ・モクレン属・ホウノキ・ブナ属・ヤマブドウ・ウルシ属・ヤマウルシ・コナラ属・クリニ属	『N30遺跡』札幌市文化財調査報告書58	1998	札幌市教育委員会	吉崎昌一・椿坂恭代
3	恵庭市西島松5遺跡	縄文後期	土壌・焼土	オオムギ・マタタビ属・キハダ属・ブドウ科・クリニ属・コナラ属	『恵庭市西島松5遺跡(2)』, 355-358	2003	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一・椿坂恭代
4	千歳市キウス4遺跡A・H・I・K地区	縄文	堅穴住居・土坑墓・盛土遺構・屋外炉・水場遺構・プラスコ状ピッタ・包含層	ヒ工属・アサ・タデ属・ナス科・キク科・ケシ科・マメ科・コリ科・マタタビ属・キハダ属・ブドウ科・コナラ属・クリニ属	『千歳市キウス4遺跡(3)』, 514-521	1999	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一・椿坂恭代
5	千歳市キウス4遺跡R地区	縄文早期・中期・後期	堅穴住居・焼土・土壌	ヒ工属・イネ科・アサ・タデ科・キク科・ユリ科・ブドウ科・ブナ科・クリニ属・マタタビ属・キハダ属・ウルシ属	『千歳市キウス4遺跡(6)』, 342-348	2000	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一・椿坂恭代
6	八雲町浜松5遺跡	縄文後期	堅穴住居・土坑・包含層	クリ子葉果皮・ミズナラ子葉・コナラ子葉・カシワ子葉・オニグリ芯核片・エゾニワコ種子・タデ属そら果・ヒツジ頭顎	『浜松5遺跡』, 185-190	1995	八雲町教育委員会	山田悟郎
7	千歳市キウス4遺跡L地区	縄文後期	盛土遺構	ヒ工属・アサ・キク科・タデ属・ナス科・アカザ属・ユリ科・マタタビ属・キハダ属・ブドウ属・クリニ属・コナラ属	『千歳市キウス4遺跡(2)』, 357-367	1998	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一・椿坂恭代
8	恵庭市ユカンボシE7遺跡	縄文後期	堅穴住居・焼土	アワ・オニグリミ・コナラ莢属・キハダ・ブナ属・エゾニワコ・アカザ属・タデ属・キク科・ユリ科・カヤツリグサ科	『恵庭市ユカンボシE7遺跡』, 361-370	1998	北海道埋蔵文化財センター	山田悟郎
9	七飯町鳴川右岸遺跡	縄文前～中期・後期・晚期	屋外炉	ヒ工属・マタタビ属・ニワコ属・キハダ属・ウルシ属・ミズキ属・タデ属・アサダ属・クリニ属	『七飯町鳴川右岸遺跡』, 205-208	1994	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一
10	南茅部町大船C遺跡	縄文前～中期	堅穴住居	ヒ工属・タデ属・マメ科・マタタビ属・キハダ属・ミズキ属・ウルシ属・ブナ属・マタタビ属・アサダ属・クリニ属・クリニ属・ニワコ属・冬芽	『大船C遺跡』	1996	南茅部町教育委員会	吉崎昌一・椿坂恭代
11	南茅部町臼尻B遺跡	縄文前～中期	堅穴住居	ヒ工属・タデ属・アカザ属・タラノキ属・キハダ属・キイチゴ属・ニワコ属・ブナ属・マタタビ属・ウルシ属・アサダ属・クリニ属・キク科・ナス科	paleoethnobotany of the kameda peninsula jomon	1983	university of michigan, No.73	G.Crawford
12	南茅部町ハマナス野遺跡	縄文前～中期	住居址床面	ヒ工属・タデ属・ブナ属・ウルシ属	『駒B遺跡・ハマナス野遺跡』	1991	南茅部町埋蔵文化財調査団	椿坂恭代
13	南茅部町ハマナス野遺跡	縄文前～中期	堅穴住居	ソバ・ヒ工属・タデ属・アカザ属・タラノキ属・キハダ属・キイチゴ属・ニワコ属・ブナ属・マタタビ属・マメ科・アサダ属・ウルシ属・カヤツリグサ科	paleoethnobotany of the kameda peninsula jomon	1983	university of michigan, No.73	G.Crawford
14	余市町フゴッペ貝塚	縄文前～中期	堅穴住居・屋外炉	ヒ工属・アカザ属・タデ科・マメ科・ヨモギ属・マタタビ属・タラノキ属・ニワコ属・キハダ属・クリニ属	『余市町フゴッペ貝塚本文編』, 531-535, 546	1991	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一
15	函館市石倉貝塚	縄文前期	堅穴住居・土坑・焼土	ヒ工属・メビシバ属・キハダ属・ミズキ属・ブドウ属・クリニ属	『函館市石倉貝塚』, 219-224	1996	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一・椿坂恭代
16	函館市中野B遺跡	縄文早期	堅穴住居・土壌・焼土	ヒ工属・タデ属・キイチゴ属・マタタビ属・ニワコ属・ガマズミ属・ウルシ属・キハダ属・ミズキ属・ブドウ属・クリニ属	『函館市中野B遺跡』第4分冊, 304-313	1996	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一・椿坂恭代
17	函館市中野B遺跡	縄文早期	堅穴住居・土壌	ヒ工属・ナス科・タデ属・マタタビ属・ニワコ属・キハダ属・ミズキ属・ブドウ属・クリニ属	『函館市中野B遺跡(3)』, 615-621	1998	北海道埋蔵文化財センター	吉崎昌一・椿坂恭代

アンダーラインは栽培植物



参考文献

- 吉崎昌一 1997 「日本における栽培植物の出現」 『季刊考古学』 50
 高橋 理 1998 「北海道における縄文時代の植物栽培と農耕の地平」 『考古学ジャーナル』 439
 山田悟郎 1998 「日本列島北端で展開された雑穀農耕の実態」 『北海道開拓記念館研究紀要』 第26号